

開発状況・開発体制 診断レポート

受発注システム開発プロジェクト

納品イメージ / 全8ページ

開発の記録から、
次に整えることを判断する。

開発の進み方・レビュー体制・作業報告を確認し、90日間の改善計画にまとめます。

受発注業務を内製化する中小企業を想定しています。4人のチームが3つのリポジトリで開発する、架空のプロジェクトです。

PR：コードの変更提案とレビューの単位。リポジトリ：コードや変更履歴の保管場所。

対象期間：架空の連続4週間 作成：合同会社ZenChain

診断結果の要約

本サンプルの設定：機能開発は継続。次の改善対象はレビュー分担と作業報告の運用。

マージ済みPR 84件 変更内容を確認して取り込んだ件数	本番リリース 4回 対象4週間の公開回数	担当Aのレビュー比率 60% 36件 / 人によるレビュー60件	報告と記録が対応 16 / 20日 担当Cの報告20日のうち
---	-----------------------------------	---	---

確認したこと	業務への影響・判断	最初に行うこと
レビュー60件のうち36件が担当Aに集中	担当Aが不在の際の確認体制を整えたい	対象機能ごとに主担当・副担当を決める
大きな変更でレビュー往復が増えている	変更範囲と受入条件を先に揃える余地がある	設計・実装・移行を分けてレビューする
報告20日のうち4日は資料の追加確認が必要	成果物や検証作業との対応を確認したい	日報にPR・検証記録・作業メモを添える

経営・開発責任者への提案

人員追加の判断に先立ち、レビューの副担当と報告の書式を整えます。4週間後に待ち時間と記録の揃い方を再確認し、必要な支援範囲を見直します。

開発指標の概要

開発指標を使った診断画面のサンプル。数値・案件名はすべて架空です。

PR数 (マージ済み)

84

リリース数

4

平均リードタイム

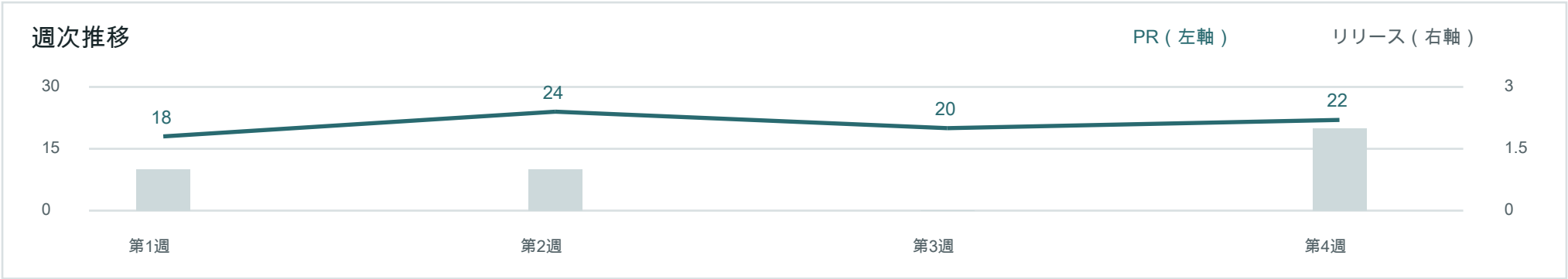
3日 6.0h

PR作成からマージまで

レビュー件数

60

人による提出レビュー



リポジトリ別 PR数

受発注ポータル		48
業務API		26
運用基盤		10

担当者別 レビュー件数

担当A		36
担当B		14
担当C		8
担当D		2

レビュー体制と変更の進め方

件数の比較に加え、変更内容・レビューの往復・担当分担を確認します。

36 / 60件

担当Aが受け持つレビュー

レビューが一人に集中しています。件数だけで負荷は確定できないため、難しい変更を誰が確認しているか、他の担当者でも判断できるかを確認します。

対象PR (架空)	内容	所要日数	確認した経緯
PR-021	受注CSVの取込	1.2日	条件が揃い、1往復で確認
PR-036	在庫引当の変更	7.8日	受入条件の追加で3往復
PR-058	権限設定の整理	6.4日	設計と移行の確認が同時進行
PR-073	帳票表示の修正	0.9日	小さな変更に分けて確認

改善案：レビューできる人と、確認する範囲を増やす

在庫・権限の副担当を決め、最初の2週間はペアでレビューします。変更が大きいPRは受入条件を先に確認し、設計・実装・移行を分けて提出します。

作業報告と成果物の対応

担当Cの報告20日を対象にした架空例。報告内容と記録の対応を確認するための資料です。

成果物と対応

13日

PR・Issue等に同日の記録

補足資料で対応

3日

検証記録・作業メモで確認

追加確認の対象

4日

リンク不足・日付のずれ

対象日	報告内容	確認できた記録	確認結果
第1週・火曜	受注CSVの入力チェック	PR-018とテスト結果が対応	成果物と対応
第2週・水曜	検証環境の設定	変更記録と検証メモで補足	補足資料で対応
第3週・月曜	在庫引当の仕様整理	日報に参照リンクがない	作業メモを確認
第3週・木曜	レビュー指摘への対応	翌日のPR更新に内容が対応	報告日付を確認
第4週・火曜	運用手順の検証	検証結果の保管先が不明	資料の所在を確認

表は代表的な5日を抜粋しています。記録が確認できない日も、会議・設計・ローカル検証等の作業があり得ます。記録の有無を実働時間や個人の能力の判定に置き換えず、必要な資料を追加で確認します。

診断の範囲と、追加で確認すること

集計・読み取り・ヒアリングを組み合わせ、確認できる事実と判断が残る事項を分けます。

資料	確認する内容	資料だけでは判断できないこと
GitHubの開発記録	変更の目的、確認の往復、承認の流れ	実働時間、成果の事業価値、個人の能力
稼働報告・日報・作業メモ	報告と成果物の対応、記録の保管方法	記録にない作業の有無や所要時間
検証記録・リリース記録	確認した環境、公開までの手順	利用者側の満足度や運用負担

開発責任者へのヒアリング	役割分担、判断待ち、仕様変更の経緯	改善後の効果。実施後の計測が必要
--------------	-------------------	------------------

AI活用について確認する事項

利用ツールと担当工程、仕様の渡し方、生成したコードのレビュー・テスト方法を確認します。PR数や差分量だけでAIの利用状況や導入効果を推定せず、具体的な作業例と運用を確認します。

改善の優先順位

担当者と確認方法を決め、実施できたかを追える粒度で提案します。

優先度	改善すること	進め方・担当	完了を確認する方法
優先1	レビューの副担当を置く	開発責任者が在庫・権限の副担当を指名。2週間はペアで確認する。	対象2領域で、副担当がレビューを完了できる。
優先1	日報と成果物を結び付ける	チーム全員がPR・Issue・検証メモのリンクを日報に記載する。	参照資料が揃わない報告を週次で確認し、補足する。
優先2	変更の範囲を小さくする	実装担当が受入条件を記載。設計・実装・移行を分けてレビューする。	大きな変更のレビュー往復と待ち時間を比較する。
優先2	AI活用の確認手順を揃える	テックリードが実例1件を選び、仕様・生成・テストの手順を残す。	別の担当者が同じ手順で作業し、結果をレビューする。

追加投資の判断は、最初の運用改善を確認してから

体制と記録を整えた後も確認待ちが続く場合は、担当領域の見直しや外部の技術支援を検討します。必要な支援範囲は、計測結果と現場へのヒアリングをもとに判断します。

90日間の改善計画

以下は架空案件への提案例です。改善効果や達成時期を保証するものではありません。

1〜30日

記録と役割を揃える

レビューの主担当・副担当を決める。日報の参照リンクを統一し、現状の待ち時間を計測する。

担当表 / 日報の書式 / 計測の定義

31〜60日

小さな変更で試す

副担当によるレビューとPRの分割を実施する。AIを使う作業を1件選び、確認手順を試す。

レビュー記録 / 作業手順 / 中間所見

61〜90日

定着と次の投資を判断する

同じ定義で指標を再計測する。残る課題を確認し、内製で進める範囲と外部支援を決める。

比較結果 / 更新した体制 / 次期計画

貴社の開発状況に合わせた診断をご検討の方へ

支援内容・料金：zench-aine.io/services

お問い合わせ：zench-aine.io/contact